

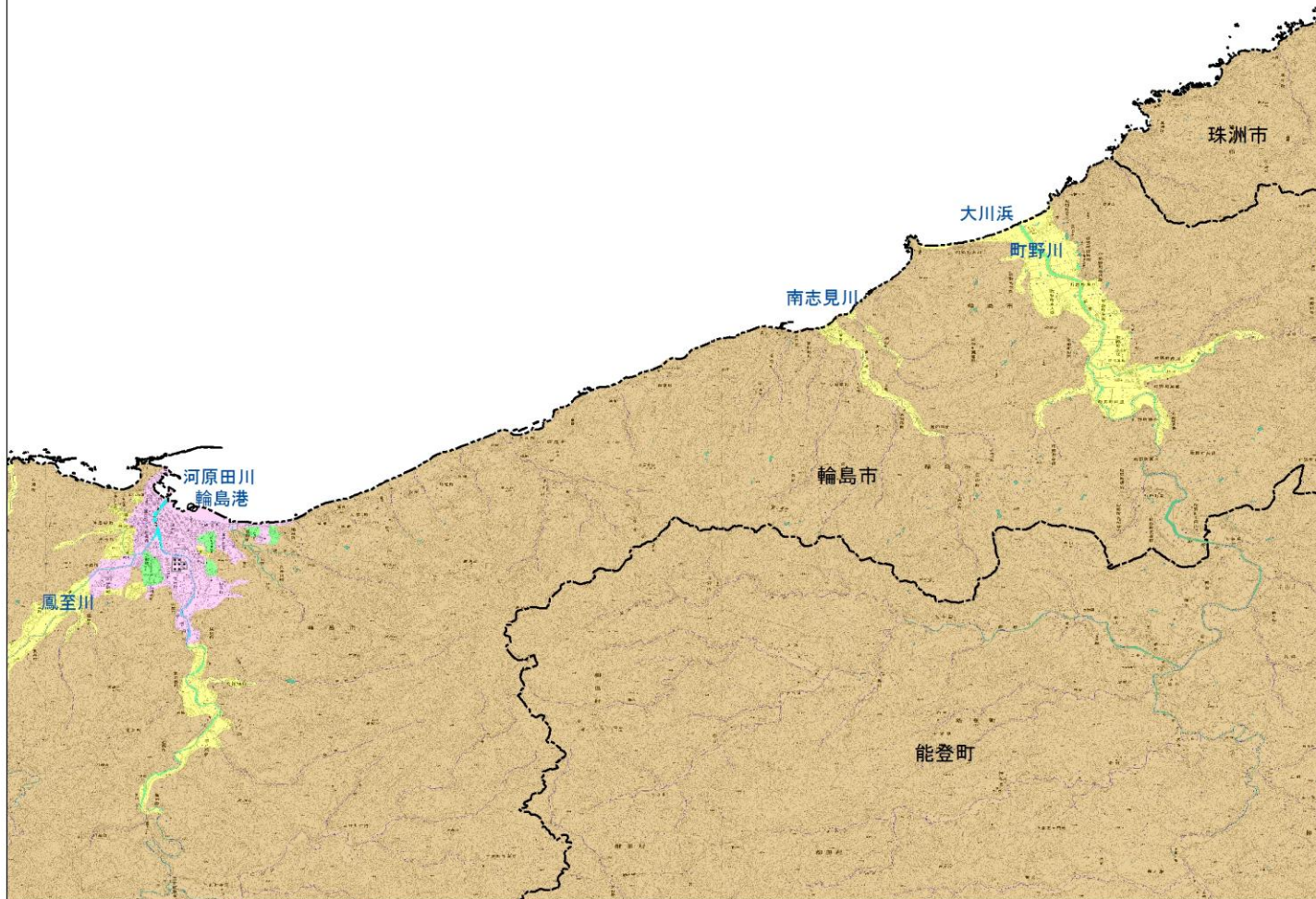
2章. 液状化しやすいさマップ

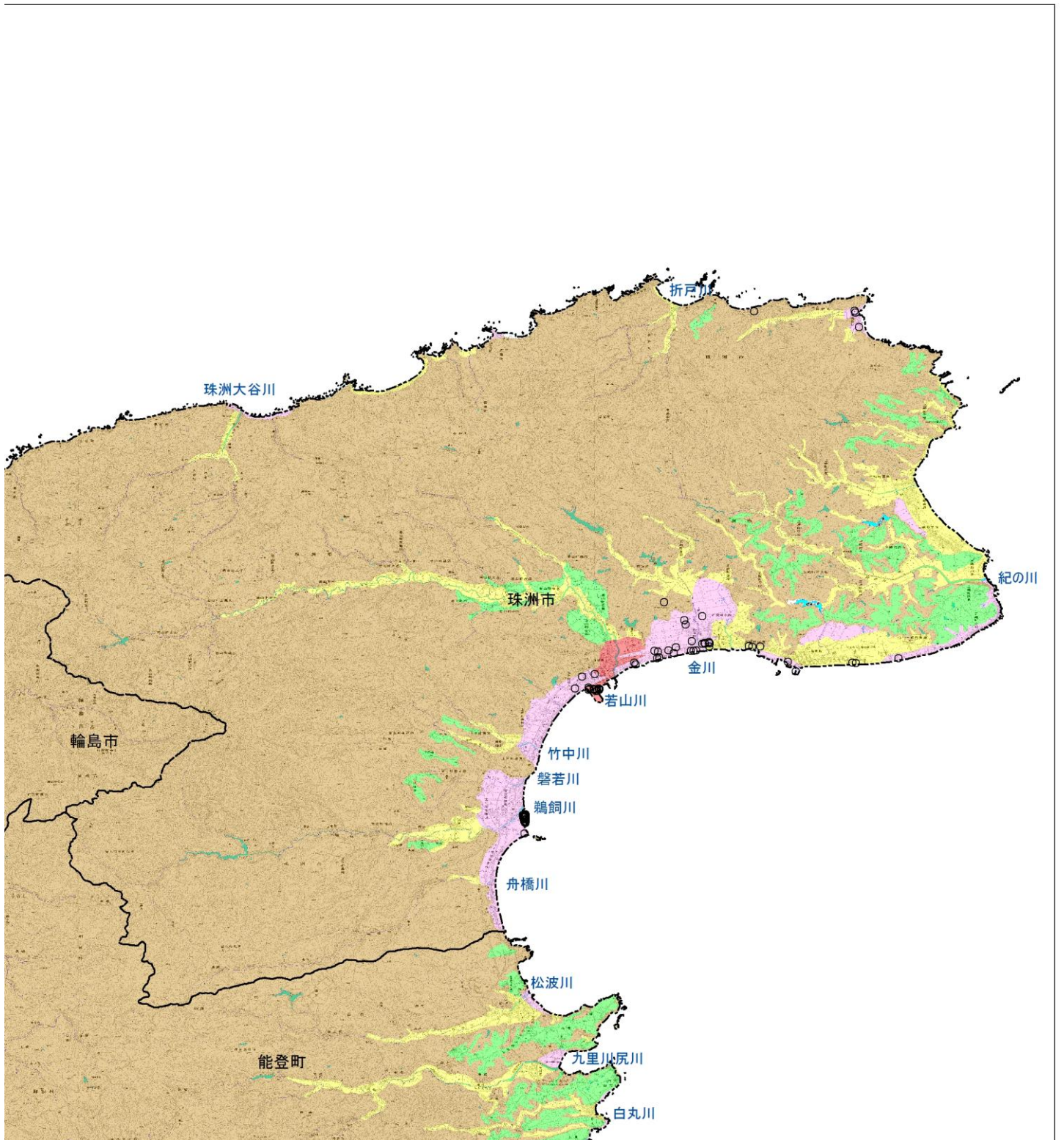
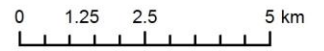
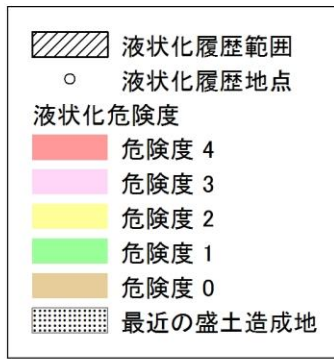
輪島・珠洲地域

本地域は能登半島の北部～北東部に位置します。地形は主に山地と丘陵地からなり、低地は小規模なものが多くなっています。北部の外浦海岸沿いは岩盤で構成される急斜面が発達し、局所的に大川浜を代表とする砂浜が分布しています。また輪島市街地を流れる河原田川と鳳至川下流には幅の広い谷底平野と海岸平野が分布し、締め固まっていない砂層と粘土層で構成されているため液状化の可能性のある範囲と想定されます。

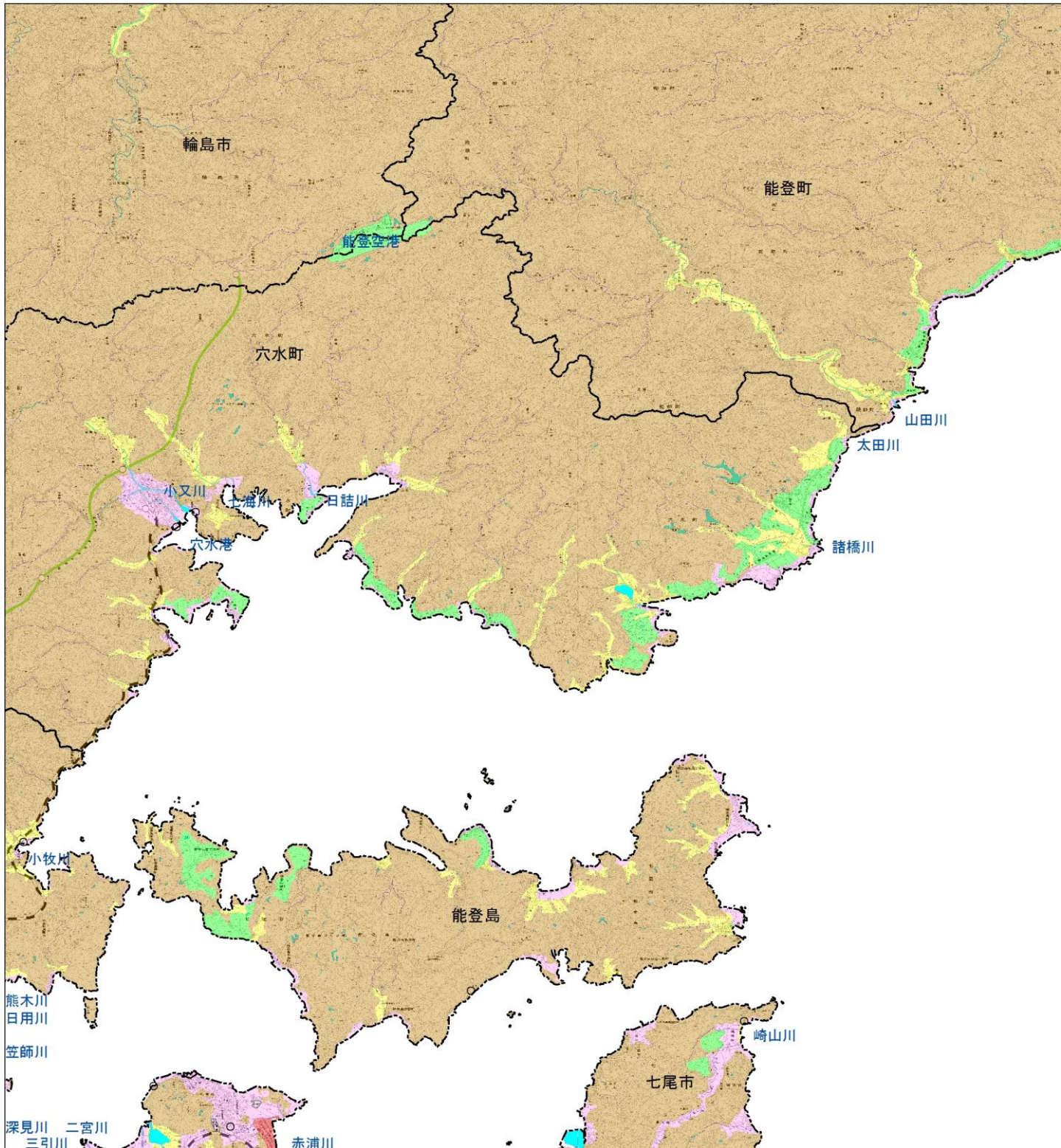
東部の内浦海岸では海岸沿いに砂丘が発達し、その背後に海岸平野が位置します。海岸平野は締め固まっていない砂層と軟弱な粘土層から構成され、1993年に発生した能登半島沖地震による液状化履歴も認められることから、液状化の可能性のある範囲と想定されます。

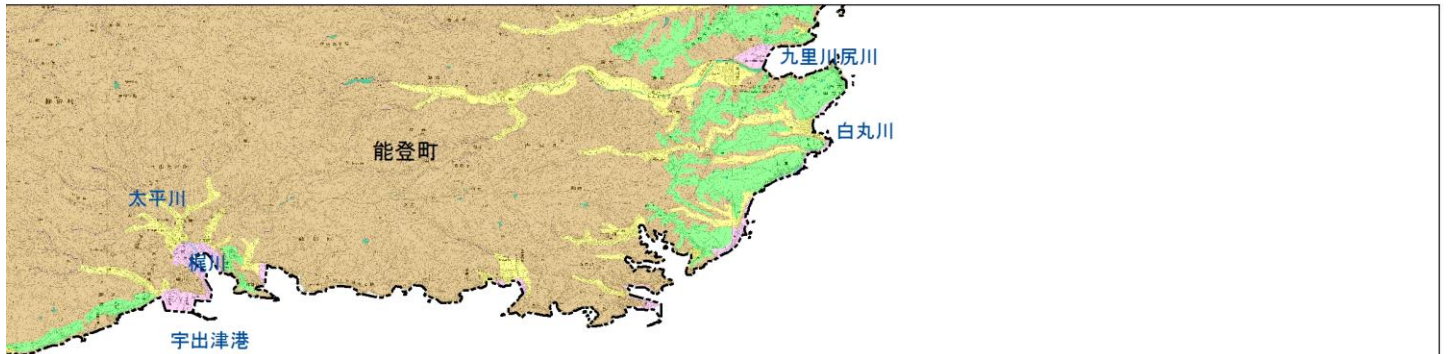
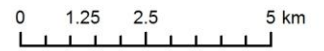
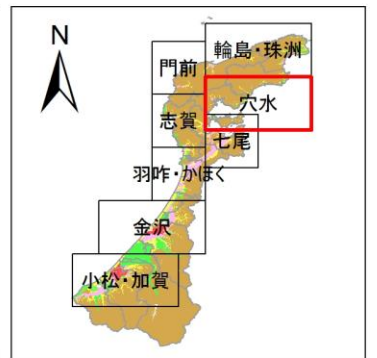
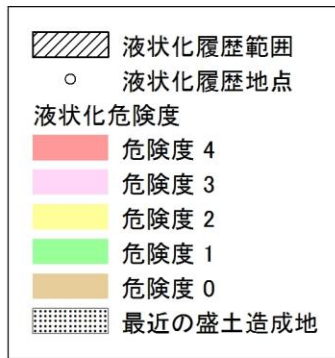
液状化履歴は、「若松加寿江(2011)日本の液状化履歴マップ 745-2008(東京大学出版会)」によります。本マップには過去の液状化履歴が○印でプロットされていますが、原典(若松、2011)では地震毎にシンボルが変更されており、また液状化が発生した地点の確実度によってもシンボルの大きさが変更されています。本マップではこれらを区別せず同じ記号でプロットしています。





穴水地域



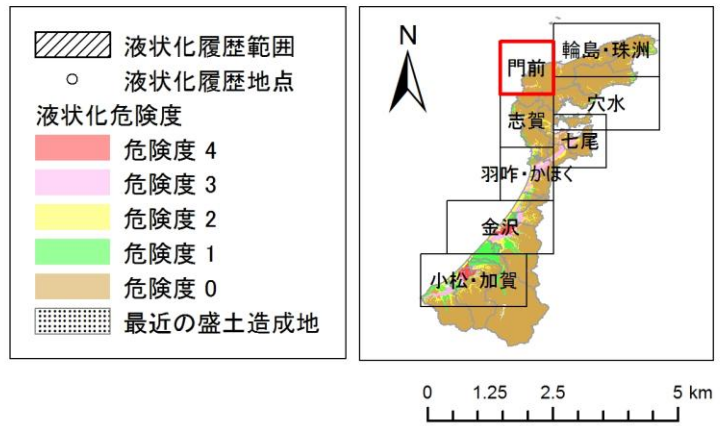


本地域は能登半島の東部で、内浦海岸の中央部に位置します。地形は能登島を含み主に山地と海岸段丘の発達した丘陵地からなり、広がりを持った低地は少なくなっています。

宇出津港と穴水港に注いでいる太平洋と小又川下流では、比較的広がりを持った海岸平野が分布し、締め固まっていない砂層と軟弱な粘土層で構成されているため、液状化の可能性のある範囲と想定されます。なお、その他の海岸平野分布域も液状化の可能性のある範囲と想定されます。

液状化履歴は、「若松加寿江(2011)日本の液状化履歴マップ 745-2008(東京大学出版会)」によります。本マップには過去の液状化履歴が○印でプロットされていますが、原典(若松、2011)では地震毎にシンボルが変更されており、また液状化が発生した地点の確実度によってもシンボルの大きさが変更されています。本マップではこれらを区別せずに同じ記号でプロットしています。

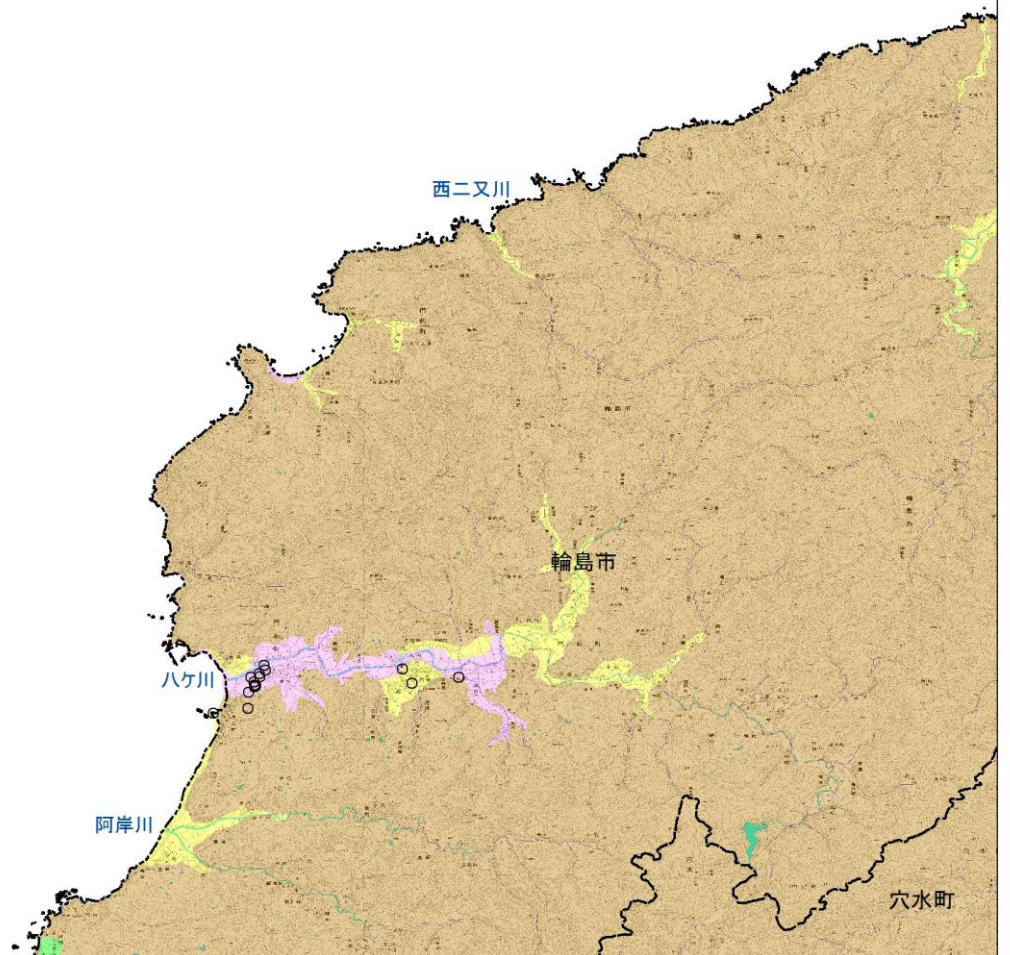
門前地域



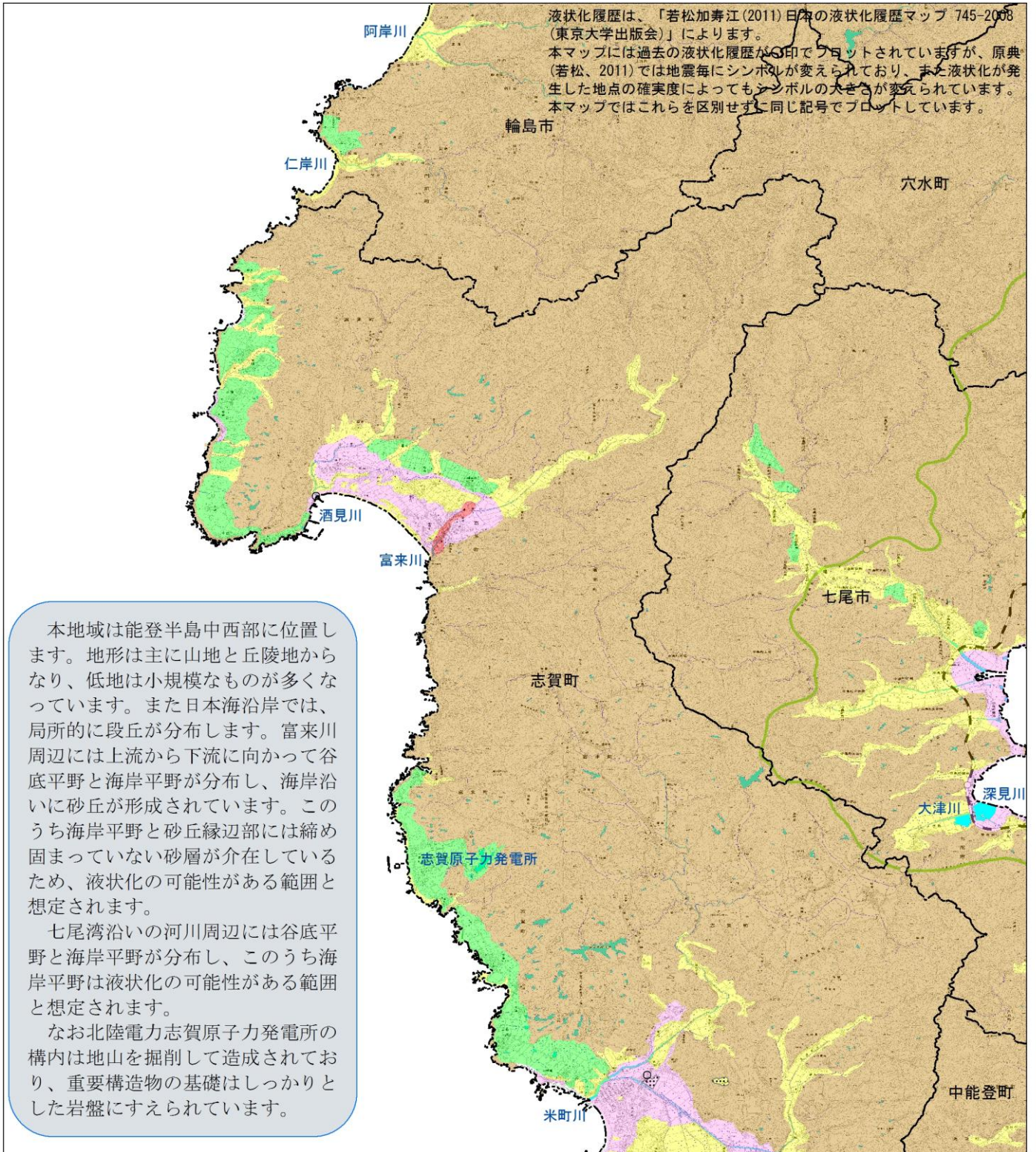
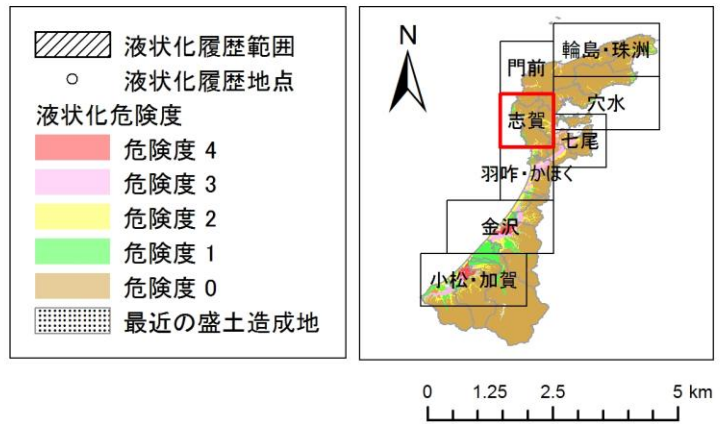
本地域は能登半島北西部に位置します。地形は主に山地と丘陵地からなり、低地は小規模なものが多くなっています。門前町を流れる八ヶ川沿いには比較的幅を持った谷底平野が広がっており、2007年の能登半島地震(震度6強)では明確な液状化現象がありました。

本マップで想定している震度5強程度の地震動では液状化の可能性は低いといえますが、より大きな地震動に対しては液状化の可能性のある範囲と想定されます。

液状化履歴は、「若松加寿江(2011)日本の液状化履歴マップ 745-2008(東京大学出版会)」によります。本マップには過去の液状化履歴が○印でプロットされていますが、原典(若松、2011)では地震毎にシンボルが変えられており、また液状化が発生した地点の確実度によってもシンボルの大きさが変えられています。本マップではこれらを区別せずに同じ記号でプロットしています。



志賀地域

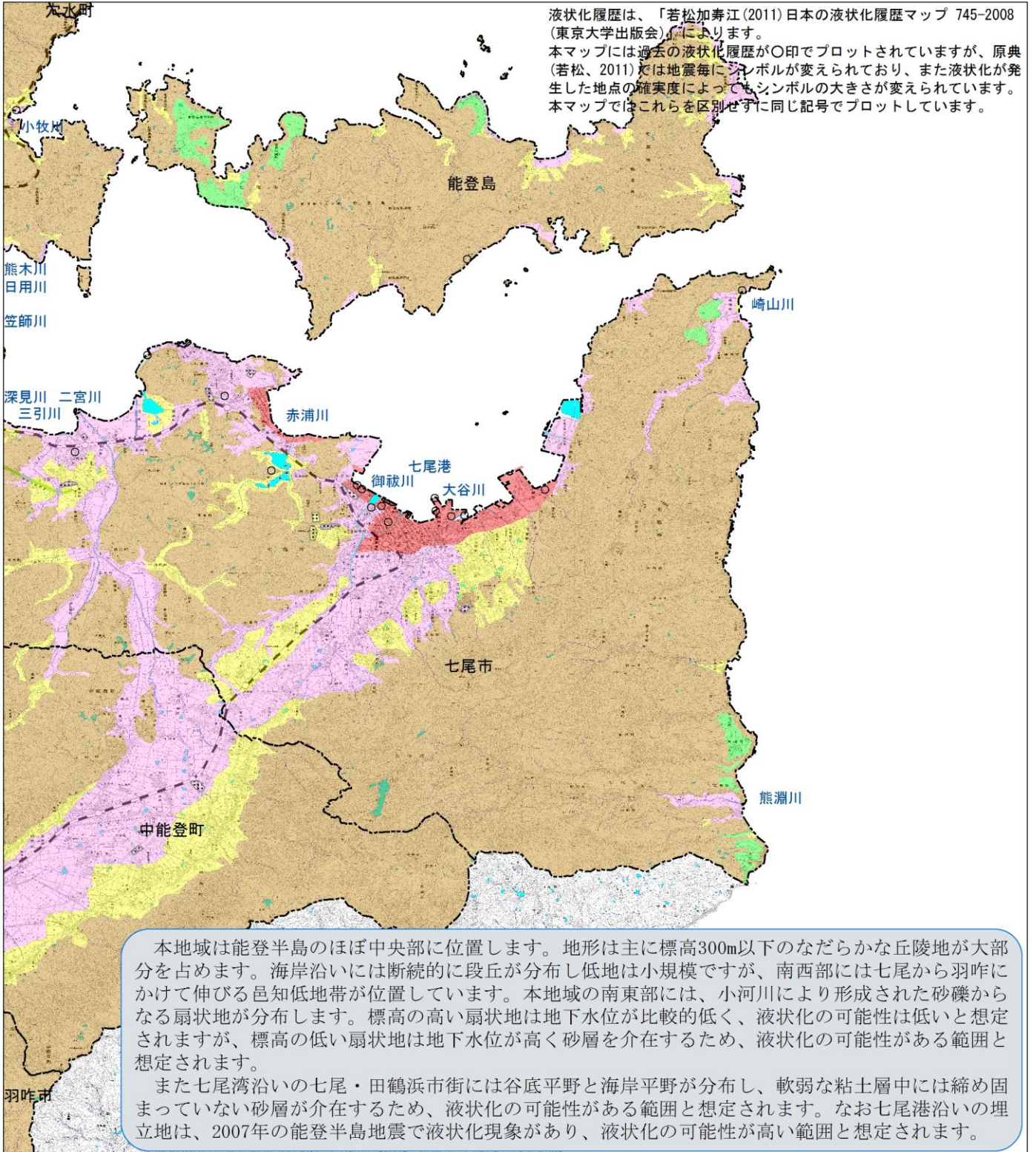
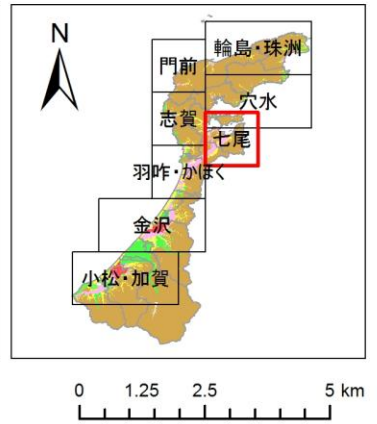
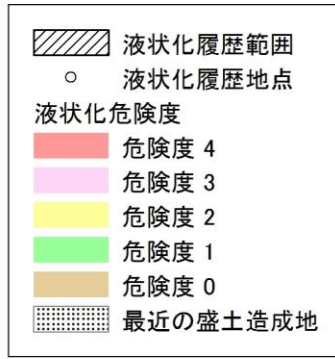


本地域は能登半島中西部に位置します。地形は主に山地と丘陵地からなり、低地は小規模なものが多くなっています。また日本海沿岸では、局所的に段丘が分布します。富来川周辺には上流から下流に向かって谷底平野と海岸平野が分布し、海岸沿いに砂丘が形成されています。このうち海岸平野と砂丘縁辺部には締め固まっていない砂層が介在しているため、液状化の可能性のある範囲と想定されます。

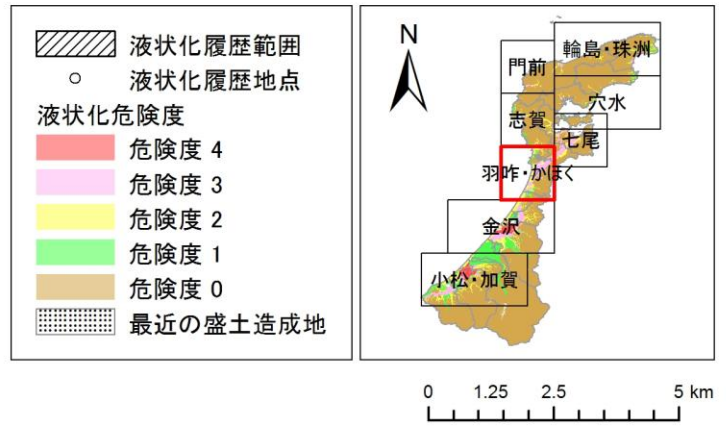
七尾湾沿いの河川周辺には谷底平野と海岸平野が分布し、このうち海岸平野は液状化の可能性のある範囲と想定されます。

なお北陸電力志賀原子力発電所の構内は地山を掘削して造成されており、重要構造物の基礎はしっかりとした岩盤にすえられています。

七尾地域



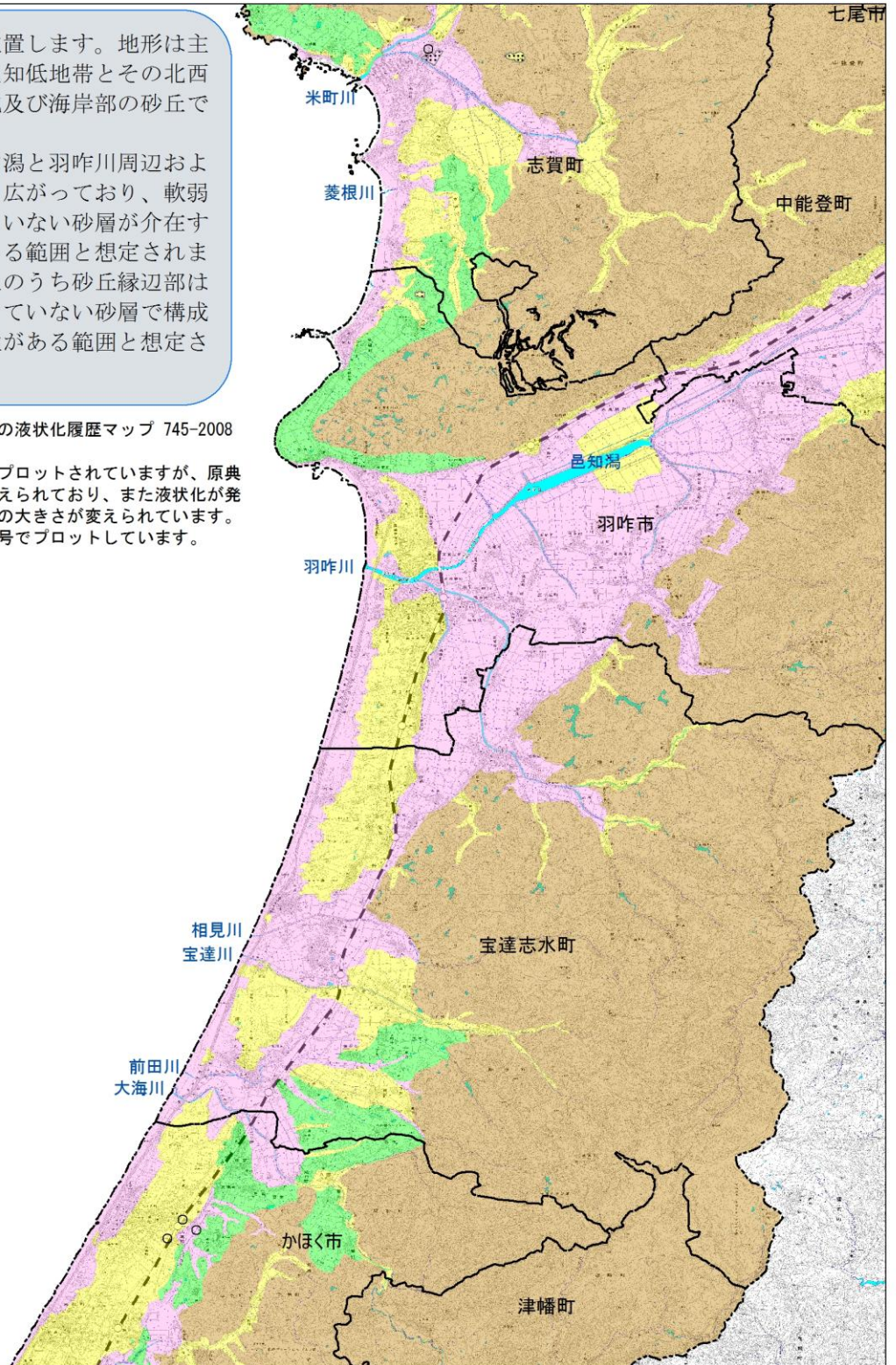
羽咋・かほく地域



本地域は能登半島頸部に位置します。地形は主に北東～南西方向に伸びる邑知低地帯とその北西側及び南東側の山地・丘陵地及び海岸部の砂丘で構成されています。

邑知低地帯に位置する邑知潟と羽咋川周辺および宝達志水町には海岸平野が広がっており、軟弱な粘土層中には締め固まっていない砂層が介在するため、液状化の可能性がある範囲と想定されます。また海岸沿いの羽咋砂丘のうち砂丘縁辺部は地下水位が高く、締め固まっていない砂層で構成されるため、液状化の可能性がある範囲と想定されます。

液状化履歴は、「若松加寿江(2011)日本の液状化履歴マップ 745-2008(東京大学出版会)」によります。本マップには過去の液状化履歴が○印でプロットされていますが、原典(若松、2011)では地震毎にシンボルが変えられており、また液状化が発生した地点の確実度によってもシンボルの大きさが変えられています。本マップではこれらを区別せずに同じ記号でプロットしています。



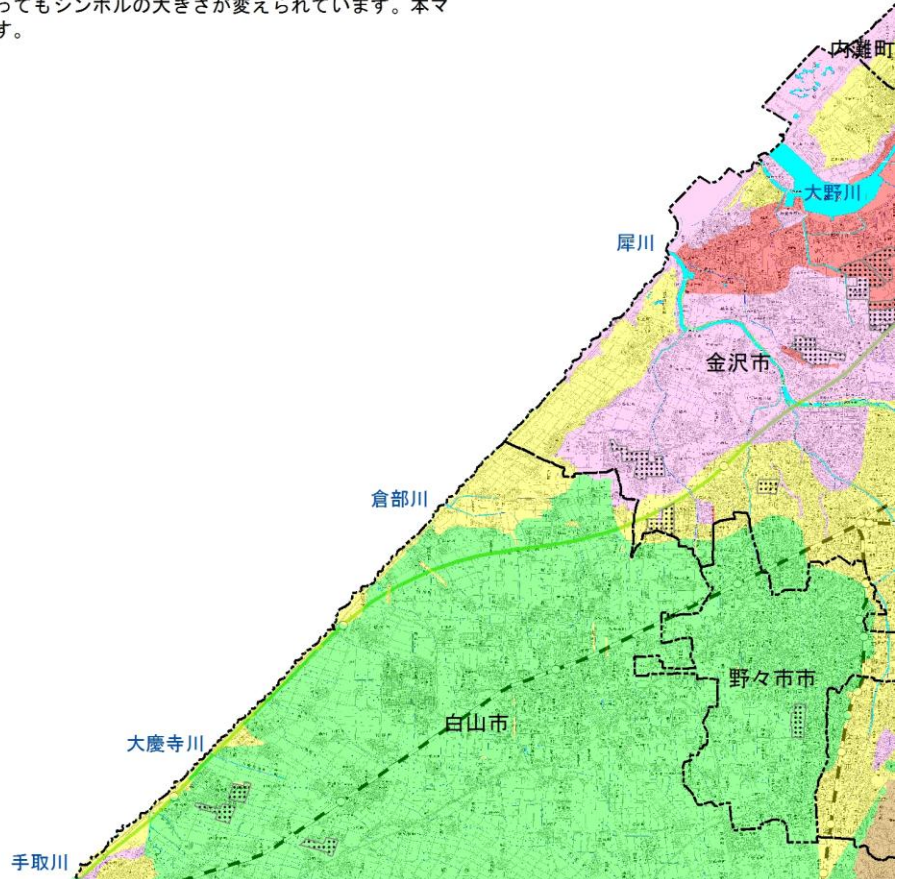
金沢地域

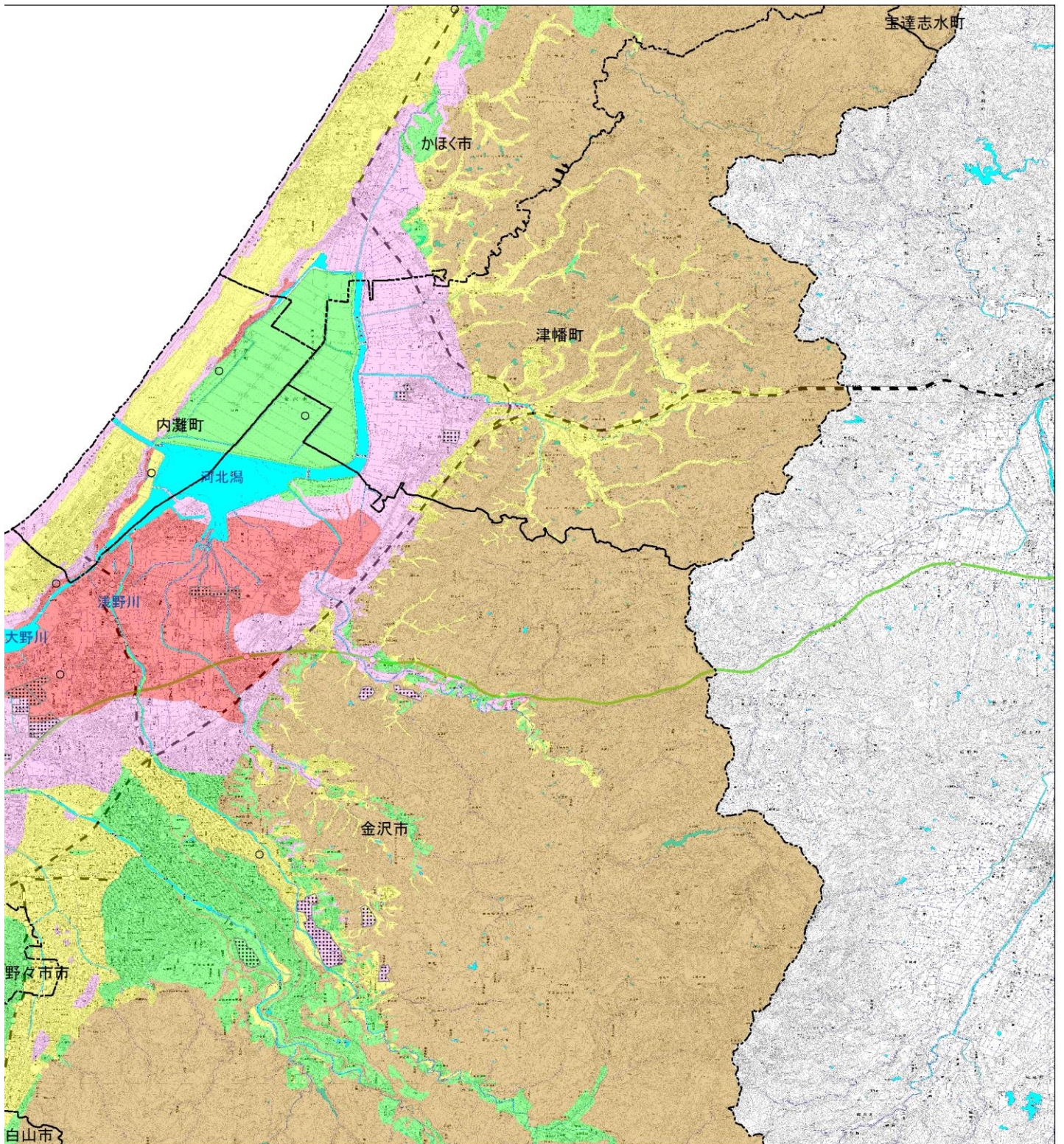
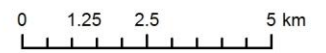
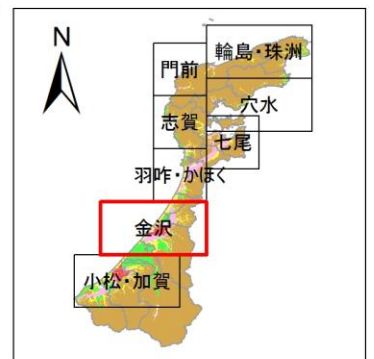
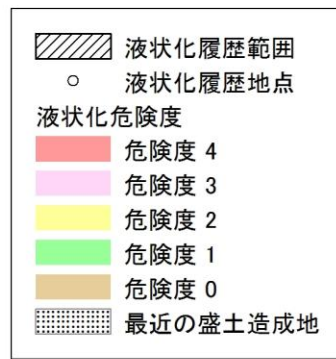
本地域の東部には津幡・森本丘陵と加越山地が広がっており、その西側には日本海に向かって概ね段丘、扇状地、氾濫平野、海岸平野(潟埋積平野)及び内灘砂丘が分布しています。また北部に位置する河北潟は、内灘砂丘の発達により日本海から切り離されて生じた水域(潟)が、河川による堆積物により埋積して形成されたものであり、その後の干拓事業により狭くなっています。河北潟干拓地は主に粘土で構成されているため、液状化の可能性は低いといえます。

津幡町から内灘町に至る地域には、河北潟干拓地を取り囲むように海岸平野が分布します。この地域の地盤は締め固まっていない砂層を介在するため、液状化の可能性があると想定されます。日本海沿いの内灘砂丘は標高が高く、地下水位は低いため液状化の可能性は低いですが、砂丘縁辺部は地下水位が高いため液状化の可能性があると想定されます。

金沢市は犀川及び浅野川によって形成された段丘・扇状地が上流側に位置し、下流側には氾濫平野と海岸平野が広がっています。段丘・扇状地は固く締った砂礫を主体とし液状化の可能性は低いですが、谷底平野と海岸平野は締め固まっていない砂層と粘土層で構成されており、比較的標高の低い地域は地下水位が高いため、液状化の可能性があると想定されます。

液状化履歴は、「若松加寿江(2011)日本の液状化履歴マップ 745-2008(東京大学出版会)」によります。本マップには過去の液状化履歴が○印でプロットされていますが、原典(若松、2011)では地震毎にシンボルが変更されており、また液状化が発生した地点の確実度によってもシンボルの大きさが変更されています。本マップではこれらを区別せずに同じ記号でプロットしています。





小松・加賀地域

本地域の東南部には能美・江沼丘陵と加越山地が広がっており、その西側には日本海に向かって段丘、海岸平野(潟埋積平野)及び砂丘が分布しています。なお海岸平野内には一段丘が分布する他、北部には手取川により形成された扇状地が位置します。

海岸平野は主に梯川、大聖川沿いに発達する潟埋積平野であり、柴山潟、木場潟はその名残です。この地域の構成地質は締め固まっていない砂層と粘土層であり、地下水位が高いため液状化の可能性がある範囲と想定されます。特に梯川周辺では地下水位が高く砂層が主体であるため、液状化の可能性が大きいと想定されます。

段丘と扇状地は主に締め具合の良い良好な砂礫で構成されているため液状化の可能性は低いです。手取川扇状地左岸下流域では締め固まっていない砂層が介在するため、液状化の可能性がある範囲と想定されます。

